

悠久

第 56 号 March 2020

本号の内容

① 若者よ！海外に目を向けよう！！	NPO法人こくさいこどもフォーラム岡山	会 長 浜 家 弘 巳
② 日中教育交流報告会	岡山県日中教育交流協議会	会 長 岡 本 啓
③ 令和元年度 日中青少年交流促進団 現地活動報告	NPO法人 国際協力研究所・岡山 日中青少年交流促進団	副代表理事 竹 島 潤 団 長
④ 岡山市日中友好協会40年の軌跡	岡 山 市 日 中 友 好 協 会	専務理事 松 井 三 平



深圳HUAWEI旗艦店

NPO 法人こくさいこどもフォーラム岡山

会 長 浜 家 弘 巳



若者よ！海外に目を向けよう！！

この原稿を書いている三月初は、新型コロナウイルスの影響で世の中が混沌の真ただ中です。小中高校が休校となり、相撲は無観客です。プロ野球とサッカーはシーズン開始を遅らせることを決定しました。

観客が集まる集会や会議等は中止され、会社関係はテレワークを推し進めています。世界的に株安となっており、景気がどこまで悪くなるのか、読めない状態となっています。せめて、この騒動が収まった時には、この騒ぎの中で学んだことが日常の生活の中に根付いてくれることを願っています。我が国の現状を見ると、いろいろと課題を抱えています。その中でも将来に向かって大きなものであり、簡単に対策が立てられないことが人口減少ではないかと考えます。更に、その上に世界に先駆けての少子高齢化という現象を抱えています。人口が減少しながら栄えた例はありません。これからの若者に期待することは、いろいろな面で国際的な活躍をして、この問題に対処することです。我々のNPO法人こくさいこどもフォーラム岡山では、国際塾を主たる事業として出来るだけ多くの岡山の若者に国際的に活躍をしてもらうべく努力をしています。

全ての高校生が世界の多くの国々を留学で経験することは不可能です。私は高校生と一緒に毎年日中友好交流の発表会に参加させてもらっていますが、これも出来るだけ多くの高校生に留学や交流の疑似体験をしてもらいたいからです。

短期・長期の留学をした生徒の経験をきくことでも出来るし、海外から岡山に留学している若者からも経験を聞き、疑似体験をすることも可能です。

国際的に活躍をするためには、日本のことを、日本の文化を知り、岡山のことを知る必要があります。かつて加えて、世界のこと、経済のこと、政治のこと等々に関するリベラルアーツをしっかり身につける必要があります。これから出来るだけのお手伝いをしてゆきたいと考えています。

令和元年度 日中教育交流報告会

岡山県生涯学習センター
令和2年2月8日(土)

岡山県日中教育交流協議会

会長 岡本 啓



報告会

二月八日。岡山県生涯学習センターで、高校生による日中教育交流活動の報告会が開催された。

この報告会は、教育交流を行っている県下の学校や行政の取り組みを広く紹介するために、毎年この時期に開催しているもので、本年は、二〇一九 STUDENT EXCHANGE (S/E) 事業に参加した生徒十五名のうち六名と岡山県高等学校文化連盟の国際文化交流事業に参加した県立玉島商業高校生徒十二名のうち四名が報告した。

また、報告会には、県高等学校文化連盟 前川隆弘会長（県立岡山城東高等中学校長）、県立玉島商業高等学校 宮原芳郎先生、県立岡山城東高等学校 久米咲絵先生、NPO 法人子どもフォーラム岡山・インターキッズから浜家弘己会長と高校生二名、NPO 法人国際協力研究所・岡山（NPO ICO）のほか、協議会の役員、会員を

含め二〇名の参加を得た。

報告者紹介（報告順・敬称略）

青山愛瑞（後楽館高校）、川田清華（金光学園高校）、瀧しいな（津山高）、梶谷心咲（岡山城東高校）、武部和伽（津山高）、奥玲香（作陽高校）、浅野美波、川上彩水、大森玲奈、清水亜衣奈（玉島商業高校）

報告の概要（抜粋）

・一番変わったのは中国人に対しての考え方です。現地で中国の方に助けられたこと、ホームステイでの優しい態度。ホストファミリーにこう言われました。「日本人は中国人にあまりいい印象はないんでしょう」と。確かにそう思っている日本人はたくさんいる。でも、隣国として助け合っていく必要があると思う。日中関係がよくなるよう、好印象を日本人が持てるよう、お互いが信頼できるような関係性が持てる日が本当に来ればいいなと強く思いました。

中国のイメージ

中華料理
漢字
パンダ
経済発展中の国
日本のことが嫌い



美味しい
日本と違う
たくさん
未来都市
みんな親切

感想

- ・実際に自分の目で見ると
- ・英語の大切さ
- ・上海にもう一度行きたい



・この報告をつくるまでの期間、いろいろなことを考えた。現在、世界的問題になっているコロナウイルスについて、このプロジェクトで関わり仲よくなった中国人に大丈夫かと聞くと、彼女らは無事なようだが、やはり怖いと言っていた。私自身、来年度からこのプロジェクトが実施できるかどうかとても心配している。世界的に武漢のみならず、中国が、そしてアジアが、差別などを少なからず受けている。日本も受けているが、中国を差別する声は日本人からも聞こえる。そんな現状だからこそ中国への偏見を少しでも減らせないだろうか。東日本大震災で「日本 加油」と、多くの支援をしてくれた中国に対して何か私たちができることはないだろうか。

難しいかもしれないが、私は上海の景色、食べ物、文化、人にもっと触れて、良さを伝えたいし、もっと他の先輩たちや、少しでも興味のある人たちにこのプロジェクトに参加してほしい。

・実際に中国に行くことで、世間の偏見を通さずに本当の姿を知ることができる、様々な刺激を受けることができる。特に、バディに「日本人は遠慮ばかりして気分が悪い」と言われたことが印象に残っている。

「日本人は良かれと思って遠慮しているが、その遠慮が中国人にとっては不快なものになりうる」この視点は、日本にただでは気付くことができなかったと思う。また、日本人は他人の間違いを指摘したり自分の意見を主張したりすることをためらいがちだ



上海陸行中学で披露する玉島商業高校の和太鼓

が、中国人はためらうどころか、むしろ積極的にそれらの行為をしていた。その理由は、論理的な根拠を持っていたからだ、中国人と交流して分かった。この点は、人に従いがちな日本人も見習うべきポイントだと感じた。

・上海でのホームステイはあっという間で、再び日本で会う約束をして帰国した。それから二ヶ月はすぐに過ぎ去り、再会の時がやって来た。

一緒にお好み焼きを作って近所で開催されていたお祭りを見に行った。次の日、城東高校と一緒に生物、古文、英語表現の授業を受けた。「日本語で受けたので難しくて何も分からなかったが、英語の時間のミニクイズで答えて正解したときに拍手をもらえてうれしかった」と話してくれた。クラスメイトからも「中国の人が来るって聞いてドキドキしたけど、話しかけたら一生懸命答えるようになって嬉しかった、また話したい。」という声を聞いた。行くまでは近くて遠い存在だった中国が、交流することですごく身近に感じられるようになった。

この事業のおかげで、固定観念にとらわれて狭かった自分の視野を広げることができた。

・中国の良さを感じたのは、中国の方のフレンドリーさと合理的な雰囲気だった。中国の人たちはさつき知り合ったばかりなのに数年前から一緒にいるようなフレンドリーさがあった。ホストファミリーもたくさん話しかけてくれて楽しい時間を過ごせた。また、日本なら丁寧にきっちりこなしそうなところも中国では少し雑なように感じてしまうところもあったが、慣れてしまえば効率よくものごとを進めているようにも感じた。

・このプログラムに参加したことで視野を広げ、日中の良さを身をもって感



バディとの別れ



スイーツ



じられて、意外と自分は日本のことさえもよく知らないのかなと思った。上海を訪ねる前は食べ物美味いというイメージばかりで、良いところが何個も見つかった。自分の目で見てみなければその国の本当の生活は分からないんだという当たり前のことを改めて認識し、ニュース報道などは断片的に切り取って日本文化を基準に他国の文化を批判的に捉えていることもあるからこそ偏見が生じてしまうのかなと思った。

・上海市陸行中学と民族音楽で交流をした玉島商業高校のメンバーからは、七月十九日からの玉島の地域に「こだわった」受け入れ、陸行中学メンバーの「芸術フェスティバル」出演、学校での大歓迎会など、受け入れ時の様子、八月十七日からの上海市陸行中学

を訪問しての和太鼓の演奏交流やホームステイの体験をプレゼン資料を用いて発表した。

意見交換など

・中国の生徒の英語力について質問があり、生徒は、習熟の程度に差を感じた者、同等と感じた者と様々であったが、お互いに外国語として学ぶ者同士が交流することで、世界共通言語である英語を用いてのコミュニケーションの可能性、重要性を再確認した。

・中国語人口の多さにも着目したい。

今回、やむを得ず報告会に参加できなかった生徒もいたが、遠くから参加して様々な気持ちを発表し、次年度以降への期待を寄せてくれた生徒に感謝します。



報告会参加者



令和元年度

日中青少年交流促進団 現地活動報告

NPO法人 国際協力研究所・岡山 副代表理事
日中青少年交流促進団 団長

竹島 潤



1. はじめに

来年度十周年を迎える当NPOは、活動の三本柱の一つに「国際協力・交流事業」を位置付けています。これまでの姉妹友好都市間交流（米国サンノゼ市・コスタリカ共和国サンホセ市）などの経験をいかし、中国・洛陽市との間で、青少年層や中学校教育との繋がりをいかに国際交流を促進させたい、岡山市におけるSDGs4「質の高い教育」およびSDGs17「パートナーシップによる課題解決」を意識した活動を推進したい…そう思っていたので、当NPOメンバー五名から成る「日中青少年交流促進団」を組織し、昨年十二月二十七日～三十一日の五日間で上海市および洛陽市を訪問しました（うち洛陽市は四日間滞在）。

1P 事前活動について

昨年九月以降に勤務後や休日を活用して、日中友好と岡山にご縁のある方や名所などの事前訪問や歴史・文化・友好交流などテーマ別自主研修会、団と中学校の紹介シート（日本語・中国語）の作成、記念品や土産の準備、中国語の学習などを行いました。

2P 現地での活動について

(一) 中国の現在（いま）と歴史・伝統を学ぶ

① 上海市・岡山桃太郎空港から上海の国際空港まで直行二時間程度。その後、リニアモーターカーや地下鉄を乗り換え、繁華街の南京東路や外灘（ワイタン）などを訪問しました。ネオン、ブランド、そして人混みに西洋建築や夜景の美しさなど、現代的で洗練された上海の雰囲気にも驚きました。

② 洛陽市・現地通訳ガイドの于愛紅さんにとともに、中国最古の仏教寺である白馬寺、三国志で有名な関羽廟、世界遺産の龍門石窟、さらに少し足を伸ばして登封市にある嵩山・少林寺などの歴史・伝統を学べる名所を訪問しました。また、洛陽市内を散策し、石畳と昼間の小売店と夜市の屋台で賑やかな旧市街、中心部の高層ビル群や商業施設の目立つ、この十五年程で急速に発展した新市街の両方を見て、変化・激動のある中国の息吹を感じることができました。

(二) 中学校の訪問と交流

① 洛陽外国語学校（中等部）
岡山外語学院、岡山市立後楽館高



洛陽外国語学校での会談

校などと交流を重ねている外国語学校。日本語コースの生徒数が多く、歓迎会は日本語コースの生徒さんたちが中心となり、流暢な日本語を用いて、日本の歌や踊りなどで歓迎してくれました。授業交流でも、来岡経験のある生徒たちが日本語で、お世話になったホストファミリーの名前や桃太郎、岡山城のことなどを質問してくれました。日本や岡山に大いに関心をもっている様子でした。斉校長先生や日本語コース担当の先生方との会談で、同校からのサマージットの際に、岡山市内の中学校訪問・交流に取り組んでいくことを確認できました。

② 実験中学校
先進的な教育実践で有名な実験中



洛陽市実験中学校の先生方と



洛陽市外事弁公室の方々と(市庁舎前)

学校。学校PRビデオや生徒さんの歓迎出し物が圧巻であり、学校の底力を随所に感じました。書道や記念撮影などで教員交流をしたり、生徒だけでなく教員交流や教育実践交流(道德教育、学級経営や保健体育授業など)を行ったりしたいとの共通理解を得られました。刘校長先生のお話や校内の数々の表彰プレートを通して、多くの「優秀教員」を擁する学校の熱を感じることができました。

(三) 洛陽市外事弁公室への表敬訪問

中国の「外事弁公室」とは、日本の市町村国際課よりも権限の大きな、中央政府に近い部署だそうで

す。同弁公室の肖副主任および人民対外友好協会の蔣理事と会談させていただきました。牡丹祭りでの親善訪問や、友好都市締結四十周年にむけた話、さらに日中間の青少年・教育交流で当促進団のような「新しいチャンネル」ができることを歓迎して下さいました。

四 事後活動について

まず、岡山市内五公民館でのミニ講座「帰国報告会 岡山市友好都市洛陽市・中国の今は？」を開催し、延べ四十名以上の方々にお越しいただきました。報道で新型コロナウイルスの話に沸く中でしたが、私ど



公民館での報告会

もにとっても本訪問をふりかえり、事後活動への意欲を高める機会となりました。講座参加者からは、中国へのイメージや情報を更新することができてよかった、との反応がありました。これとは別に三月二十一日(土)には、ご来賓の方々にもお越し頂いての公式報告会も開催予定です。次に、前述3(2)の各中学校との交流については、①岡山市立旭東中・高松中、②岡山太田附属中など団員の勤務校を中心に、教育・青少年交流プログラムを実現できるよう、学校現場や関係機関との調整、協働を進めています。こうした事後活動を継続したり、今後も日中友好事業に参加したりすることで、洛陽市および中国における青少年交流活動に

関わる関係機関の方々との相互理解やネットワーク構築に努めたいと思います。

五 おわりに

アジアで急成長する中国の国際友好都市・洛陽市を訪問したい、その思いを行動にうつして本当によかったと思います。現地の人たちは本当にエネルギーで、出会った方々は皆、日本への関心や親愛の情を伝えてくれました。過去から現代、そして未来への移り行く中国の息吹を五感で感じ取ることができました(今も、現地の美味なる中国料理の数々は垂涎もの!)。当NPOの持つ強み、そして情熱と行動力が、地元岡山における日中友好・青少年交流の推進に寄与できるよう、微力ながら精進させていただきたく思っております。

最後に、現地で温かく私たちを歓迎してくれた中国・洛陽市の皆様、本事業の実施にご助力いただきました、認定NPO法人岡山市日中友好協会さま、(株)アジア・コミュニケーションズさま、岡山外語学院さまはじめ関係各位の皆さまに、あらためて御礼申し上げます。今後とも、何卒よろしくお願い申し上げます。押忍

岡山市日中友好協会40年の軌跡

伝統ある岡山と中国の歴史を踏まえ、
新しい時代へ友好を繋いでいこう！

岡山市日中友好協会

専務理事 松井三平

来年二〇二一年の九月、岡山市日中友好協会（以下、協会）は設立四十周年を迎える。

古くは遣唐使の吉備真備、そして近代の内山完造、郭沫若、岡崎嘉平太等の先人が蒔いた友好の種。協会は、この伝統と歴史、先人の遺産のバトンを引き継ぎ、未来へタッチする役割を担っている。そして若い世代がこのプラットフォームを踏み台として相互の往来を盛んにし、引越しのできない隣国・中国との相互理解と相互発展を目指してもらいたいと願っている。

ここでは、協会の設立背景と活動について紹介し、これから中国との様々な交流に係る人々の参考にしていただければと思う。

*岡山での日中友好運動と 協会組織の概略

協会の設立に至るまでの歴史的経過は大きく三つの区分に分けられるのではないかと思う。

一、幕開けから黄金時代

（一九四八年～一九六三年）

二、分裂混乱の時期

（一九六三年～一九七八年）

三、岡山市日中友好協会の設立と活動

（一九七八年～今日）

今回は、この大きな流れの中で一、の

幕開け時代と三、の協会活動の中から、特筆すべき事柄を紹介したいと思う。

一、幕開けから黄金時代

一九五〇年に東京で日本中国友好協会全国本部が設立されている。そして先立つ二年前、一九四八年には矢掛町で友好協会の看板が掲げられた。これは、全国の友好協会の初代理事長が岡山県後月郡芳井町（今の井原市）出身の内山完造氏であったからという理由による。内山氏は終戦後「内山書店」を開いていた上海から帰国し、東京に住んでいたが、お墓参りで芳井町に帰省する途中、矢掛町で中西寛治さんに会い、中西さんの自宅に日中友好協会の看板を掲げて活動するよう薦めた。中西さんはそれを忠実に実行した。

矢掛町に看板が掲げられて以降、後に岡山市内に事務所を移した中西さんは、本格的に友好活動を展開していった。一九五五年には、全国でもまだ珍しかった中国からの訪日団「中国訪日学術代表団」（団長・郭沫若中国科学院院長）を岡山に迎えた。郭沫若氏は岡山第六高等学校（のちの朝日高校、岡山大学）に留学していたこともあり、

青年時代の岡山を想い出しながら岡山滞在を満喫したという。この時に後樂園を散歩し、かつて留学時代に丹頂鶴がいっぱい放たれていた光景を思い出し、戦争ですべて焼かれてしまいい羽も鶴がないことを嘆き、後日、黒竜江省から鶴を二羽寄贈することになった。



後樂園郭沫若詩碑

がった。その心情を岡山ホテルで開かれた歓迎夕食会の席で即興詩に認めたのが後樂園内にある郭沫若詩碑の内容である。

その翌年一九五六年には郭沫若氏の特別のはからいにより招聘を受けた岡山県学術文化使節団（団長―林秀一岡山大学教授）が約二か月間、中国を訪問している。そして同年七月には約束通り、中国から丹頂鶴が届いた。郭沫若氏の詩碑が建立されたのは一九六一年になる。中西さんは、この間協会の事務局長として組織の要にいた。そして訪中団では秘書長として、訪日団受け入れ実行委員会や詩碑建立委員会では事務局長として常に活動の中心的役割を果たしていた。

最初の訪中団に参加した多くの方々、が帰国後、それぞれの立場で友好活動を展開していった。その代表的な方が、川崎学園の創始者である川崎祐宣さんだろう。川崎氏は、訪中団の副団



岡山県学術視察訪中団 毛沢東主席と会見

長として毛沢東主席を表敬訪問した時、同じくヘビースモーカーだった毛主席にマッチでタバコの火をつけてもらったことに大変感激し、帰国後は中国から看護師さんの研修生を受け入れるなど交流を開始した。この医療交流は今日も継続していると聞いている。また、川崎氏は後に、上海の衛生局（日本の厚生労働省にあたる）を訪問していた時、福祉の交流を打診され、帰国後旭川市の江草安彦氏に伝えた。その後江草氏は、上海市との福祉交流を開始し、今日まで継続している。

このように、あの時代の歴史的な訪日団受入と訪中団派遣が今日の岡山と中国の友好交流の礎になった。内山さんから中西さんに受け継がれた友好の種は実を結び、開花し、また新たな種を蒔いていった。

二、岡山市日中友好協会の設立と活動へ

一九七二年、当時の総理大臣田中角栄氏と中国の周恩来総理が日中共同声明に調印し、戦争状態になっていた日本と中国は正式に国同士のお付き合いをスタートし、大使館の相互設置や航空便の相互乗り入れなどが始まった。そして、一九七八年には日中平和友好条約が締結され、民間レベルでの交流が一層活発になり、友好都市関係も日本全国で締結が進むなど友好ムードが盛り上がりつつあった。

岡山県では、一九八一年に岡山市が河南省の洛陽市と友好都市を締結した。その後、新見市と河南省信陽市、岡山県と江西省、和気町と上海市嘉定区、玉野市が江西省九江市、倉敷市と江蘇省鎮江市、賀陽町（今の古備中央町）が江蘇省淮安市、鴨方町（今の浅口市）が江西省高安市と締結が続いた。

そのような友好ムードを背景として、組織的に混乱していた協会を再建しようという動きがあり、一九七八年には、岡山市日中友好協会再建設立準備会ができた。岡山市民会館や禁酒会館などで会合を重ね、どのような組織にするか、活発な、時には激しい議論が交わされた。カギは組織の在り方だった。当時存在していた協会は政治色が強く、市民組織としての広がり欠けていた。そこで、日中友好に賛同する人ならだれでも参加できる幅広い市民組織にすることで一致。それは正

に内山完造先生が目指していた組織の姿でもあった。スローガンは『市民みんなで日中友好』に決まった。呼びかけ人代表として赤木五郎氏（元岡山大学学長）を始め、学術界、経済界、宗教界など多くの方々の賛同が集まり、一九八一年九月十二日に設立総会が開かれ、現在の協会がスタートした。この組織準備の中で大きな役割を果たしたのが、矢掛町に全国に先駆けて友好協会の看板を掲げた、初代事務局長の中西寛治さんだった。中西さんは、黄金時代に活動に参加していた人々に協力を呼びかけ賛同人を募り、自らは常務理事として協会を指導した。当時私は、準備会に参加し、中西さんと出会った。事務局長の心構え、会計処理の仕方、人との接し方、人間としての生き方など様々なことを中西さんから学び、私の日中友好人生が始まった。

協会設立後、まず力を入れたのが青年活動だった。当時、国費で来ていた数少ない中国人留学生との交流を深めるため『日中友好青年サマーキャンプ』を実施、また、『現代中国映画上映会』を、毎年継続した活動として岡大の学生らと取り組んだ。事務所内で留学生を講師に『実践中国語講座』も開設し、私もともに学んだ。また、協会設立と同じ年に友好都市締結をした洛陽市との交流を早々に始めた。赤木会長を団長に第一回協会訪中団を派遣して洛陽市との絆を強化した。この協会訪問団は天安門事件やサージンなどで中止したことがあるが、ほぼ毎年継続し、

昨年片山会長を団長に実施している。洛陽の新安県の貧困地区にあった申窪村小学校の建設寄付金活動を、岡山市立陵南小学校中心に取り組み建設に協力したこともある。また旭川市の上海との福祉交流にも協力、『福祉の翼』という障碍者が参加する訪中団は二十回、二十年継続という金字塔を打ち立てた。仏教交流や文化交流にも力を入れてきた。そして、洛陽市孟津県の黄河沿いの緑化活動にも日本政府の基金を運用し、十二年間実施した。

この間の詳細な活動については協会三十年誌や会報『岡山と中国』に詳しく掲載しているので参照していただきたい。

*友好を繋いでいく

初代赤木五郎会長、二代六車清茂氏、三代三島伯之氏、四代片岡和男氏、五代片山浩子氏、そして本年第六代会長として土井章弘氏が就任された。

今後、協会は、組織や財政を強化し、後継者を育成すると同時に、医療・福祉、青少年、教育、スポーツなどの分野で交流を促進していく、合わせて他の団体との連携を深め、交流を支援する役割も担っていければと思う。それにはやはり若いエネルギーが必要だ。日中友好の伝統ある岡山の地で多くの若者の活動への参加と協会への入会を強く呼びかけたい。





岡山商科大学孔子学院

中国語講座

8レベル展開 計18回
※途中からの受講可能

子供向けコース

親子での受講も大歓迎
毎週土曜日 計15回

出張中国語講座

簡単な日常会話から本格ビジネス中国語まで
対応します。内容は相談に応じて調整いたします。

出張中国文化講座 (開講料無料)

岡山県内の小学校、中学校、高校及び公民館を
対象とした出前中国文化講座を開講いたします。

お問い合わせ／お申し込み 岡山商科大学孔子学院 〒700-8601 岡山市北区津島京町2丁目10-1
TEL 086-256-6670 (直通) FAX 086-255-6947 <http://www.osu.ac.jp/koushi/>



学校法人 中国学園

中国学園大学

- 現代生活学部人間栄養学科 ●子ども学部子ども学科 ●国際教養学部国際教養学科
- 大学院(現代生活学研究科 子ども学研究科)

中国短期大学

- 総合生活学科 ●保育学科 ●情報ビジネス学科 ●専攻科(介護福祉専攻)

〒701-0197 岡山市北区庭瀬83番地 TEL086-293-1100 FAX086-293-3993
<https://www.cjc.ac.jp/> E-mail t-bosyu@cjc.ac.jp

学校法人 加計学園

岡山理科大学附属高等学校

国際バカロレア ワールドスクール認定校

【普通科】

- ・グローバルサイエンスコース
- ・総合進学コース
- ・国際バカロレアコース
- ・スポーツサイエンスコース

〒700-0005 岡山市北区理大町1-1
TEL 086-256-8527 FAX 086-256-8526
URL <http://okayama.ridaifu.net/>
フリーダイヤル ☎ 0120-209817



赤ちゃんからお年寄りまで、
ひとりひとりの「よく生きる」のために。

ベネッセグループは、教育 / 語学 / 生活 / シニア・介護の分野でお客さま一人ひとりの「Benesse」を
支援する事業を展開しています。 Benesseは、フレン語の bene(よく) と esse(生きる) を一語にした造語です。



株式会社 ベネッセホールディングス 岡山本社 〒700-0807 岡山県岡山市北区南方3-7-17 <http://www.benesse-hd.co.jp/>

岡山県日中教育交流協議会 会報『悠久』第56号

発行：令和2年3月／発行者：岡山県日中教育交流協議会 編集委員会
〒700-0902 岡山市北区錦町5-15 南田辺ビル2階 TEL (086) 225-5083 / FAX (086) 225-5041